

アルパック ニュースレター

VOL.114

発行/2002年
7月1日

ISSN 0918-1954



東山古墳公園竣工式（本文中に関連記事があります）

目次 contents

| | |
|--------------------------------------------|----|
| ・「しかのゆ」「さるのゆ」 | 2 |
| ・お遍路さんとお接待文化とNPO | 4 |
| ・蘇った古代のランドスケープ | 6 |
| ・上山高原エコミュージアム（仮称）の試行プログラムが 始まりました | 7 |
| ・ふれあい住宅（コレクティブハウジング）連絡会に おじゃましました | 8 |
| ・「参加型まちづくり時代のコンサルタント」を 出版しました | 10 |
| ・メディア・ウォッチ | 11 |
| ・まちかど | 12 |

「しかのゆ」、「さるのゆ」

—八瀬野外保育センターの小さなお風呂の改修工事が完成しました—

〔京都事務所／前田 怜嗣〕

八瀬は、比叡山のふもとにあります。野生の猿や鹿がたくさんおりまして、センターにもたくさん下りて参ります。せっかく植えた、小さな苗木を食べたり、畑をあらしたり、猿などは民家に入り、冷蔵庫を開けたり、センターの屋根でお昼寝したりとマイペースです。しかしながら、子ども達は間近でみる野生の動物に喜んだり、ビックリしたりと大変です。

そんな、場所にある「八瀬野外保育センター」の屋外風呂等の改修工事が、この3月に完了し、7月からの泊まり保育で本格的な利用が始まります。併せて、近傍にありました屋外便所と炊事場の改修工事を行いました。

先代のお風呂は、木造平屋で昭和47年から利用され、(社)京都市保育園連盟が、まだ事業団だったころのパッションを伝えております。お風呂は4m×4mの小屋で、長方形の湯船が1つありました。脱衣室もなく、質素なものでした。

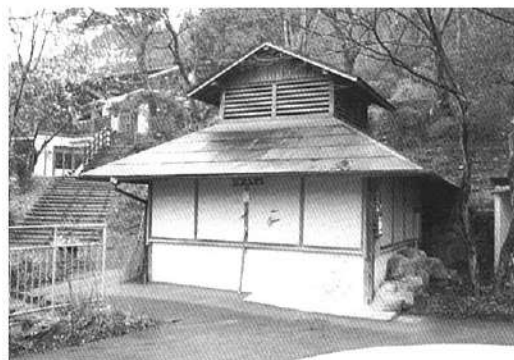
センターでは、7月から9月までの間、子ども達の自立を促進するために「お泊まり保育」(親は同伴しないで八瀬で1泊宿泊をする保育)を行っております。

今回の設計では、昨年、完成したひいらぎの

家の改修工事(ニュースレター vol.108で紹介)にともない、お泊まり保育の1日の受け入れ園数を2ヶ園から3ヶ園に増やしたことに対応し、全体的な機能を改善するために、お風呂の改修をしました。

センターは山の中に立地しているため、子ども達が安全にお風呂を利用できる必要があり、斜面で露天風呂という訳にはいきませんでした。しかし、センターの目指す方向が、施設はあくまでも、野外保育をサポートするものという考え方がありますので、小さな別棟型となりました。配置は、先代のお風呂の位置にリプレイスされ、宿泊施設とは少し離れた場所にあります。昔同様、城崎の様に「お風呂は、外湯気分でご利用ください。」と……。子ども達には、お風呂に入るのに、夕方の八瀬を歩いて頂きます。

形は広場にあわせて、平面的には扇形をしています。構造は、木造です。まだ、竣工したてなので木部が白く見えますが、次第に周囲と馴染んでくるでしょう。また、浴室は小さな脱衣室をつけ2つにし、間仕切りをたたむことで1室でも利用可能です。これで、同時間帯に、同時に2ヶ園が利用することも可能で、セン



先代のお風呂



お風呂外観

ターでの保育プログラムの自由度が増し、少しゆったりとした時間の使い方が可能になります。

最近、銭湯にいく子も減ったようで、湯船が家より大きなお風呂では、どうしても泳ぎたくなくなり、片側で20人ほどいっぺんに入るのでとてもにぎやかです。昔とは建物もプランも変わりましたが、今までどおり、八瀬の風の入ってくるお風呂です。

入口には、子どもから「しかのゆ」「さるのゆ」というひらがなを墨でもらい、暖簾にして、お風呂のサインとして使用しました。暖簾屋さんに「これは、子どもの字なんですよ」と言うと、「だれか、偉い先生の字かと思いましたは・・・」とビックリされました。のびのびとした字で、なかなかきまっております。お風呂時間になると暖簾が下がりお風呂が用意できたことが解ります。

また、隣接し建っている屋外便所は、事業団の頃のセンターを残す意味も込めて、木造の軸組と既存ブロック壁を残して便所のプランの見直しと改修、傷んだ木部や屋根の改修を



行い、既設資源の有効利用を図った設計としました。また、旧プールは、京都造形大学助教授松井利夫先生より、陶素材の岩オブジェをご寄付して頂きましたので、オブジェをアクセントにした月の形の水たまりとして、笹船などを浮かべて遊ぶ場所としました。

八瀬野外保育センターは約7,184坪の自然のフィールドです。そして、利用園にとっては、「プライベートビーチ」ならぬ「プライベートマウンテン」となります。

皆様のハートウエアの詰まったセンターで、子ども達や、先生方の笑顔が続き、今年、このお風呂に入った子の子が、25年後に「うちのおかあはんも、きたんやて」と友達とお話しながら、八瀬のお風呂に入って会話していることを夢みて筆をおきます。

(担当：京都事務所 前田怜嗣・山崎博央)



暖簾



天井見上げ

お遍路さんとお接待文化とNPO

[大阪事務所／中塚 一]

昨年度、四国地方整備局建設部と5市（徳島県阿南市、香川県観音寺市、愛媛県今治市、愛媛県伊予三島市、高知県高知市）の共同調査による「四国都市再生推進方策検討調査」をお手伝いさせていただきました（調査概要は、四国地方整備局のホームページ URL：<http://www.skr.mlit.go.jp> をご覧下さい）。今回は、調査の中で四国の様々なまちをお訪ねし、色々な方々にお話をお伺いした中で、印象に残り考えさせられた「お遍路さんとお接待文化とNPO」の関係についてご報告します。

高速道路から国道、遍路道へ

調査のケーススタディ5市が四国4県に広がっていたので、当初は、各市への打合せにはレンタカーで新しくできた高速道路（Xハイウェイ）を活用させていただいておりましたが、どうも四国の匂いが感じられませんでした。その後、四国で様々なまちづくり活動ががんばっておられる街や人、NPO等にヒアリングをさせていただくために地道（国道）を走っていると、車の排気ガスに混じってひたすら歩いておられる「お遍路さん」をたくさん見かけるようになってきました。映画「死国」等で見たと白装束の高齢者の方だけでなく、20歳代の女性の若者から団塊の世代の中年男性まで、実に様々な方が歩いておられます。



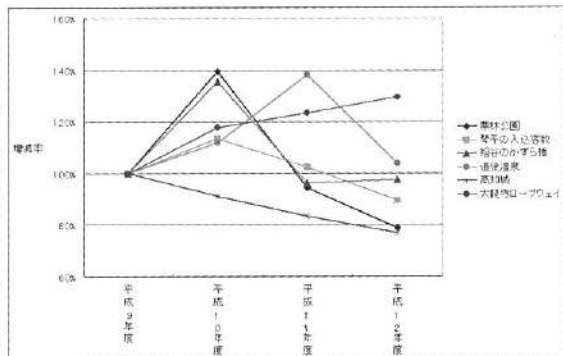
「一番さん」で親しまれている霊山寺

お遍路さんが急増している

四国における観光地の入込状況を見てみると、平成10年の明石海峡大橋や平成11年のしまなみ海道の開通に伴う観光ブームも極めて短期的に終わり、ほとんどの観光地が約1割/年以上の割合で減少しており、開通前の利用者数は平成9年を下回る地区も多く生まれています。そのような中で、一部の新しい観光地などを除き、「四国八十八ヶ所巡礼」に関連する施設（太龍寺ロープウェイ）だけが約5%/年ずつ除々に増え、平成9年度（107,000人）に比べ平成12年度（138,500人）では実に約3割増加しています。これは、NHK等の特別番組などの影響もあると思いますが、高齢化の進行（元気なシニア層の増加）、観光スタイルの変化、自分さがしや心の癒しを求めた「哲学遍路」（哲学遍路については、元新聞記者である辰濃和男さんの岩波新書「四国遍路」をご参考に）の増加が要因ではないかと考えられ、今後も高齢化のスピードと社会の不安定さに比例して、確実に増加していくと考えられます。

様々な年齢層で、それぞれのスタイルの、新しい「八十八ヶ所巡礼」

市内に2ヶ所の礼所がある香川県観音寺市の調査によると、お遍路さんの概況としては、(1)年齢は50歳以上が約4分の3、(2)2～5人の



お遍路さんが急増
資料：四国の主要観光地の入込状況（四国運輸省HP）



駐車場で待つ大型バス

「友人や家族」のグループが約5割、団体ツアーが約4割で1人は約1割、グループは「乗用車」が多く、団体ツアーは「バス」、1人でも「乗用車」が約6割で「徒歩（いわゆる歩き遍路）」は約3割となっています。また、関連の観光雑誌も増え、周辺観光地の案内ブックやJAFが「クルマで行くおへんろ巡り」を発行、格安のバスツアーやJR、百貨店の文化サロンによるツアー等も出てきています。たしかに、数ヶ所の札所（若輩者はもちろん車です）を巡らしていただくと、大型バスと乗用車の多さに驚きます。

「お遍路さん」は観光客ではない

下世話な若輩者のコンサルタントは、この現



JAFによる「クルマで行くおへんろ巡り」



新しくなったモダンな打ち放しの第68番「神恵院」

象とまちづくりの関係に思いをよせますが、札所の住職や川の清掃や遊び、イベントを展開されているNPOの方、中心市街地の再生に向けてひたすら努力されている行政マンの方などとの会話の中から、「お遍路さんは観光客ではない」「1200年つづいているお遍路は四国の文化である」「遍路文化の真髄はお接待にある」等の声をお聞きました。また、「四国がひとつになるのは高速道路ではなく遍路道に宿る遍路文化ではないか」との意見もお聞きました。

歩き遍路とお接待、多様な巡礼スタイルとNPO

また、歩き遍路の方は千数百キロを歩く際に、その土地土地の方々から様々なお接待を受け、一人で歩いていないことに気づくともお聞きました。歩き遍路とお接待文化の脈々と受け継がれた歴史の重み。新しい時代を迎え、様々な巡礼スタイルで四国遍路をめざす人々が増え、新しいお接待のスタイルがその上に積み重ねられる必要があるのではないのでしょうか。歩き遍路を体験していない若輩者は、歩き遍路とお接待、車等による遍路とボランティアやNPOとの関係にヒントがあるのではないかと考えています。

蘇った古代のランドスケープ

〔大阪事務所／中川 天開〕

ニュースレター111号(2002年1月発行)でご紹介した東山古墳群のオープニングイベントが5月21日に開催されました。イベントでは、記念式典を皮切りに、北小学校の児童による古代米(赤米・黒米)のもちつきと火おこし体験、古代人(!?)の参加と指導による古墳石室内の敷石体験など盛りだくさんの内容で実施されました。

古墳群は約1haの範囲内に直径約25mを有する1号墳をはじめ、石室をすっぽり輪切りにした断面展示施設など大小12基におよぶ古墳が復元されています。

古墳群の中で1、2の大きさを持つ1号墳と15号墳の墳丘には自然土を骨材にする透水性樹脂舗装が施されるとともに、これら2基の古墳の特徴であるテラスもあわせて復元されており、その姿を際立たせています。残りの古墳群にも緑が色づきはじめ、ようやく現代に古墳時代のランドスケープを再現できたかと思っています。

この東山古墳群は北はりま田園空間博物館のサテライト(展示物)の一つとして位置づけられ



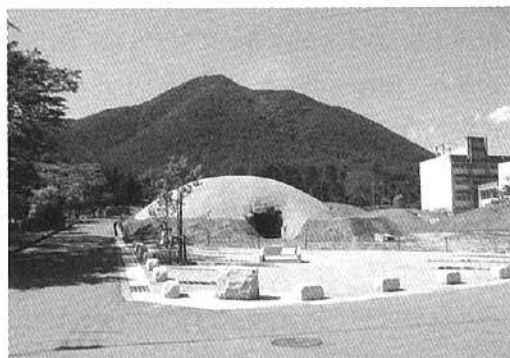
児童による火おこし体験

ており、今回の取り組みをきっかけに、地域みなさんが古墳群という極めて希で貴重なこの地域資源に愛着をもって関わり続けてもらうことを期待しています。

復元された古代ランドスケープに現代人の姿が交わる風景を願って・・・

■場所：兵庫県中町東山(兵庫県立多可高校西隣、国道427号にサインが出ています)

※表紙と本文中(一部)の写真は中町建設課からお借りしました



妙見山を背景にした古墳群



透水性樹脂舗装による墳丘の復元



古墳石室内の敷石体験

上山高原エコミュージアム（仮称）の試行プログラムが始まりました

〔大阪事務所／畑中 直樹〕

兵庫県では、イヌワシなどが生息し、多様で貴重な生態系を育む温泉町上山高原や麓の集落などの周辺地において、この豊かな自然や、自然と共生する暮らしに育まれた文化を県民共有の財産として守り、継承していくため、「上山高原エコミュージアム*（仮称）」の取り組みが始められています。

ここでは、県有地（約373ha）を中心に、ブナを主体とした広葉樹の森やススキ草原の復元などの自然環境の保全・復元を、ボランティアや森林作業従事者、自然保護グループ、NPO、事業者等多様な主体の参画と協働により進めていこうとしています。また、生物多様性を維持してきた上山高原の自然の循環のしくみや、自然と共生してきた麓の集落に根づく知恵を学び、活かすための多彩な交流・実践プログラムを企画・実施していく予定です。これらの取り組みは、地元が主体となった運営組織を中心として、都市部住民や団体・NPO、事業者、行政といった多様な主体が知恵と労力と資金を出し合いながら、環境保全と地域振興をリンケージ（結ぶ）していこうとしています。

現在、平成17年度オープンを目標に、これまで開催されてきたワークショップをもとに準備組織（この7月27日発足予定）を経て特定



ササ刈り



パンフレット

非営利活動法人（NPO法人）を設立し、運営やプログラムの実施方法などの準備や様々な試行を行っていく予定になっています。この5月3日～4日には、地元組織の主催による試行プログラムの第1弾として「上山高原エコミュージアム春のプログラムー草原を復元し、山菜を食すー」が実施され、都市部からの参加者を迎え、地元の人々とともにササの刈り取りや自然散策、交流会などを楽しみました。

上山高原エコミュージアムでは、これからも毎月第4週末に様々な試行プログラムを予定しています。興味のある方や参加を希望される方は、大阪事務所の畑中か吉田までお問い合わせください。

*エコミュージアム：地域の有形・無形の資源を展示物として見立て、地域をまるごと「生きた博物館」として、地域の人々の手で活かしつつ保全する取り組みです。



雨の中の登山

ふれあい住宅(コレクティブハウジング)連絡会におじゃましました

〔大阪事務所／馬詰 建〕

先日、兵庫県、神戸市、尼崎市の各ふれあい住宅の代表、世話役が集まる「ふれあい住宅連絡会」に同席する機会があり、ふれあい住宅(コレクティブハウジング)の現状と課題を垣間見ることができました。

ふれあい住宅は、震災を契機に神戸及び兵庫県で初めてつくられた公営住宅で、全部で10のふれあい住宅がつけられました。震災以後、大阪府営、長崎県営、埼玉県営、その他、社団法人や民間による供給事例もでてきています。

ふれあい住宅は「いつでも誰かと会えるし、いつでもひとりになれる」がコンセプトです。通常の公営住宅と比べ、共同の活動を重視し、そのための集会室やその利用を前提とした計画、また、そうした主旨を理解した上での入居を前提としています。

ふれあい住宅の活動内容

ふれあい住宅では、団地ごとに違いますが、概ね次のような活動を行っておられます。

(1)朝食会：「モーニング」と称して、月2回程度、日曜日に100円程度を徴収して、みんなで

朝食会。

(2)食事会：同じように200～300円で、夕食会などを企画。仕出し弁当をとって、みんなで食べることもあるようです。

(3)ふれあい喫茶：交代もしくはボランティアで、喫茶を運営。食事会などとあわせて、少し余りができれば、みんなで旅行に出かけたりしておられます。

(4)様々な活動の場として：ボランティアの方の助けなども借りながら、手芸、その他の文化活動も行われています。

みんなが集まったり、声をかけあうことで、お互いに気をかけたり気遣う関係が生まれており、ふれあい住宅で孤独死などは今のところないそうです。

ふれあい住宅の問題点

しかし、次のような問題もあるようです。

(1)ほとんどの人が入居前に理解していない。理解していない人が入居するのはお互いに不幸だという意見もありました。そうした人に説明したりして、活動に参加してもらうのを促すのも、世話役として疲れる・・という意見も。ふれあい住宅連絡会として、市や県の募集説明会に同席し、説明できるようにしてもらったそうです。

(2)同じ団地に一般住棟と混在している場合は、他の居住者から福祉サービスや優遇がある



ふれあい住宅連絡会の様子(写真提供：石東直子氏)

かのように思われる。実際は集会室が少し充実しているだけで、自分たちでがんばるしかない。

(3)計画主旨はよいが、行政の従前、従後の関わりが少ない（建設した後の関わりが少ない）。

(4)集会室や活動のための資金が不足する。活動費の徴収以外に、まちづくり活動費助成への応募なども検討されているようです。

(5)世話役のがんばりなどに負ってしまう部分が多い。どうしてもそうなります。そこでこうした連絡会のような各団地のつながりが生まれたようです。

(6)体の弱った方が増えると活動が停滞していく。ふれあい住宅は必ずしも高齢者だけではないのですが、シルバーハウジングという制度を利用して、高齢者向けの住宅仕様や緊急通報システムをつけている場合が多く、この場合、入居者は高齢者に限られています。これからの大きな課題だそうです。

ふれあい住宅連絡会

こうしたなかで、ふれあい住宅連絡会は、とくにそれを担う世話役の方たちの情報交換や励ましの場として、大きな役割を担っていると感じました。会議でも各団地の問題や悩みが報告され、みなさんが意見を出し合ったり、「それなら私が助けにいく！」という声や「気にしないのでがんばろう！」という励ましの声がたくさ

ん飛び交っていました。

また、ふれあい住宅のいろいろな課題や改善点を行政に伝えたり、先達として他府県のふれあい住宅に向けて、情報発信をするという役割も担っているようです。

デンマークのコレクティブハウス

私は学生時代にデンマークの学生向けのコレクティブに住んで、住宅政策を勉強していました。学生のコレクティブやハウスシェアリングが一般的な北欧などでは、こうした共同活動のトレーニングが若いうちからできています。そうしたことは私にとっても、初めての経験でした。

その一方で、学生同士とはいえ、さまざまな問題や参加しない人もでてきます。そのフロアのコミュニティが気に入らないと他に移る人もいました。共同生活のスタイルには一朝一夕にはなじめないこともあるかと思います。そういう意味では学生のハウスシェアリングなどはそうしたトレーニングだと思えば、良いことではないでしょうか。また、住宅の供給者である非営利住宅協会が、他のうまくいっている団地に見学や紹介をしたり、リーダーとなる人に集まってもらって、研修会などを実施しています。

今後は、ふれあい住宅連絡会のような取り組みだけでなく、供給者がコミュニティのプログラムづくりや研修を行うことも必要ではないかと思っています。

※ふれあい住宅について、詳しく知りたい方は、『コレクティブハウジングただいま奮闘中』（石東直子著、学芸出版社）に詳しく書かれています。



大倉山ふれあい住宅の共同集会室とつづきバルコニー
（写真提供：石東直子氏）

「参加型まちづくり時代のコンサルタント」を出版しました

【大阪事務所／杉原 五郎】

このたび、「参加型まちづくり時代のコンサルタント—市民、行政、専門家の協働による地域経営」(はる書房)を出版しました。ささやかではありますが、社会に向けて私自身の情報発信ができたことに少しばかりの手応えを感じています。ここに、出版本の簡単な紹介をさせていただきます。

本書は、これまで折りにふれてあちこちで書いたり話をしてきたことがベースとなっています。21世紀の節目の年・2001年にはなんとか出版したいと意気込んでいましたが、諸般の事情から約半年遅れとなりました。たんなる自分史ではなくて、社会に向けたメッセージとして、読み手(ターゲット)を想定し、何か共感を得るような内容にするため苦勞しました。鳥取県智頭町のまちづくりで知り合いになった、はる書房の古川弘典氏の励ましと的確なアドバイスによって、なんとかゴールにたどり着くことができました。

事実を書き連ねた報告書ではなく、むしろ学術書でもありません。「参加型まちづくり時代」という時代認識を踏まえた、私自身のまちづくり論とコンサルタント論が基調となっています。いま、まちづくりに何が問われているのか、われわれコンサルタントにはどのような展望があり、どのような役割が期待されているのか、について私自身の考えを述べています。同時に、アルパックの経営者及び中小企業家同友会活動の経験を踏まえて、これからの企業経営に求められるものは何かについて問題提起をしています。「まちづくりも企業経営も、元気な人が

いないとどうしようもない。まちづくりと企業経営を成功に導くのは、智恵と情熱と社会的使命感である」といった趣旨のことを書きました。

表紙の帯には、大学時代の恩師である吉川和広先生(京都大学名誉教授)に推薦の言葉を書いていただき、表紙のデザインは、バードデザインの鳥山大樹さんのお世話になりました。関心のある方はぜひご一読いただき、率直な感想をいただければ幸いです。

<構成と内容>

21世紀を生き続けるために

第1部 まちづくりを支えるコンサルタントの仕事

1. コンサルタントの成長と現段階
2. コンサルタントの役割とその展望

第2部 ひと、まち、地球の価値を高めるまちづくりへの挑戦

1. 人間発達のまちづくり論
2. 港の活性化とまちづくり
3. 学研都市とまちづくり
4. 震災復興とまちづくり
5. 沿岸域の再生とまちづくり

第3部 コンサルタントからみた海外のまちづくり事情

1. ヨーロッパ、アメリカ、アジアの交通事情
2. アメリカ、アジアの都市事情
3. アメリカの港湾事情

第4部 これからのまちづくりと企業経営

1. いま、まちづくりに問われていること
2. これからの企業経営に求められるもの

<編集後記>

■前号で同封した宛先確認ハガキの意見欄に皆さんからたくさんのご意見・ご感想をいただきました。今後、編集していく上で参考にさせていただきます。どうもありがとうございました。

■アルパックのホームページをより見やすくするためにリニューアルしました。今後は、コンテンツも充実させていきます。皆さん是非、アクセスして下さい。

URL : <http://www.arpak.co.jp>

紹介者/京都事務所 石本 幸良



「美しい都市をつくる権利」

- 著者：五十嵐敬喜
- 発行：学芸出版社

昭和47年上京以来「美しい都市-京都」を中から見続けて30年が過ぎました。学生時代に歴史的な町並み保全の運動と出会い、そしてこれまで建築設計や都市計画政策の立案を通じて都市と関わってきました。

合法に対する市民の無力さ

「法律さえ守れば何をしてもいいのか…」職住が共存する都心部の町家街区に、突然建ちあがった巨大なマンションによって、美しい町並みが壊され、先祖伝来、綿々と培ってきたコミュニティを分断された住民のつぶやきです。現在、京都の都心界隈では、未曾有のマンション建設ラッシュと、その土地利用も町並みも、バブル期以上に「美しい町並み」が急激に変貌をとげようとしています。

「都市格」と「美しい都市」

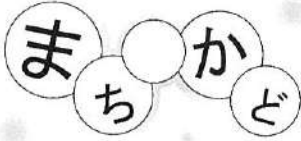
このような私に最近出会った2つの強烈な言葉があります。一つは宮本憲一先生の「都市格」です。先生は都市格の6つの条件をあげ、京都を都市格の高いまちと評価して頂いております。

もう一つは五十嵐敬喜先生の「美しい都市」です。先生はすでに都市の「美」について語り続けておられ、今回は新たに「美しい都市」を「創る権利」の出発点として今回紹介する本書にまとめられています。

本書では、国内外6つの事例を挙げながら、それぞれの都市の試みと成果、そしてそれぞれの現状が語られています。その一つひとつが、同様な現状に直面する京都の都心部の住民にとっては、なぞるように馴染み深くもあり、目がくらむほどに羨ましくもあります。殊に国立市の事例は、日本では他に例を見ない市民・行政・議会が一体となった運動として、鮮烈な印象が残りました。三者が「まちへの思い」を共有し得たことへの感動と羨望は、誰の胸にも迫るものがあります。そこには「市民」が存在し、「市民の都市」が内側から機能しようとしています。

翻って京都を見ると…。幾度となくマンション建設反対運動が繰り返され、それは溜息にかわり、また一つまた一つと低層の町家街区に巨大なマンションが林立しています。

美しい都市をつくるということ。6つの事例には6つの方法論があり、一般解はないのでしよう。しかし手探りでも、それぞれのまちで、それぞれの条件下で、住民の思う美しい都市を素描していくことから「権利」は始まります。そのための手がかりを本書からは随所に読みとることができます。



伊勢湾岸自動車道の開通と 臨海部の新名所

〔名古屋事務所／鈴木 正芳〕

2005年に万博開催と新国際空港開港を控えた名古屋都市圏で、インフラ整備の目玉の一つである伊勢湾岸自動車道路の名古屋港横断部分が今春開通しました。

先日、機会を得て、名古屋都心部からそのルートをとどる小旅行に出ました。まず名古屋都市高速道路を走ること20分で名古屋港東端の東海ICに到着し伊勢湾岸自動車道路に入りました。そこから三重県方面に向けて走ること約10分で名古屋港潮見ICに到着しました。そこで高速を出て、第一の目的地の名古屋港ワイルドフラワーガーデン「ブルーボネット」に向かいました。ここは中部電力の新名古屋火力発電所の一部を、創立50周年事業の一環として整備し今春一般公開されたものです。開発テーマは「ワイルドフラワーを基調にした自然風庭園」を目指し、イギリスからはロビン・ウィリアム氏、ジョン・ブルックス氏、アメリカからはダレル・モリソン氏などの著名なガーデニングデザイナーの参加を得て作られました。また、日本からも照明デザイナーの石井幹子氏ら、多数のアーティストが参加しております。名古屋港にぽっかり浮かんだガーデニングスポットが周辺の産業・港湾施設等の景色にとけ込んでいる様子は来場者を不思議な気持ちにさせるようで、平日でも1500人程度、休日には3500人を集め、事前の予想を大きく越えています。

次に、また高速道路に戻り、西へ向かいました。すぐに名古屋港の中心部といえる金城埠頭

付近を通過します。この部分の横断橋は名港トリトンの愛称で呼ばれる美しい吊り橋です。しばらくすると右手前方に野鳥の楽園として世界的に有名な藤前干潟が見えてきます。なんたる幸せと思いつつ車を走らせると、三重県と愛知県が帰属を争った広大な鍋田干拓地の上に出ます。仕事柄何とかしたいと思いつつ通りすぎると長島ICに到着しました。ここは中部圏屈指のレジャー施設「ナガシマスパーランド」があります。またその中には第二の目的地であるファクトリーアウトレット「ジャズドリーム長島」があり、インターから5分で到着しました。中部圏初の本格的アウトレットモール約80店は今春開業後順調に集客しているようで、平日にも係わらずかなりの賑わいを見せており、観光スポットとしても定着しつつあるようです。

伊勢湾岸道路の名古屋港横断部分は、車で走れば30分足らずですが、その間の産業・港湾施設群の中にきらりと光るものが見え始めたことは今後に大きな期待を抱かせます。



ブルーボネットのワイルドフラワーガーデンの一部

アルパック (株) 地域計画建築研究所

・本 社

URL: <http://www.arpak.co.jp> E-mail: info@arpak.co.jp

・京 都 事 務 所 〒 600-8007 京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町 82・大和銀行京都ビル 6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

・大 阪 事 務 所 〒 540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70・住友生命 OBP プラザビル 15F/TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

・名 古 屋 事 務 所 〒 460-0008 名古屋市中区栄 3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル 13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925

・東 京 事 務 所 〒 186-0001 東京都国立市北 1-1-17・田畑ビル 3F/TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室/TEL(03)3226-9130

・九 州 事 務 所 (株)よかネット 〒 810-0001 福岡市中央区天神 1-15-35・ホンダハビエ 5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673